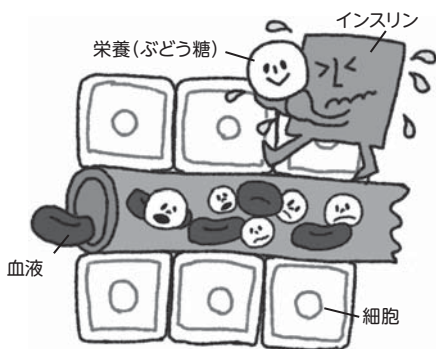


からだのしくみを知ろう。

からだの仕組みと組合員健診の大切さ
連載その4

臨床検査技師 甲斐 美矢子

よく知られている血液検査の項目として血糖値があります。血糖値とは血液中にあるブドウ糖の量のことです。食べ物や飲み物は、唾液や腸液などに含まれる消化酵素によりブドウ糖などに分解され、血中に溶け込み血液の流れによって全身に運ばれます。全身に運ばれたブドウ糖は、インシュリンの助けをかりて細胞に取り込まれ、筋肉や臓器のエネルギー源として使われます。



インシュリンの助けを借りないと、ブドウ糖は細胞に取り込まれることができないため、血液の中にブドウ糖が留まってしまいます。そのため、血液は砂糖水のような状態で全身をめぐる、動脈などを傷つけていきます。この状態で血液検査を行うと、血糖値が高いということになります。

糖尿病の人が、目が悪くなったり、腎臓が悪くなったりするということは、高血糖で動脈硬化をおこしてしまうからなのです。